

(菱刈町田中前畑)

### 位置と環境

前畑遺跡は町の中心地から北へ約3km隔てた、重富川の右岸の標高約176mの水田地に所在する。当地は北・南の丘陵に挟まれ、その間を川内川の支流、重富川によって形成された沖積地の基部にあたり、当地は水田地帯となる。重富川との比高約4mである。なお、周辺の丘陵台地縁辺部には縄文早期の塞ノ神遺跡や白坂遺跡など多数の遺跡が知られ、さらに、当地から北へ約4kmには岡野古窯跡がある。

### 調査の経緯

調査は、県営農業基盤整備事業に伴って、菱刈町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て昭和57年12月21日～28日に実施した。調査対象面積は400㎡である。なお、遺跡は工事中発見によるもので関係機関で、その取り扱いについて協議し、盛土工法による設計変更等も行い緊急に対応することとなった。

### 遺構と遺物

調査の結果、縄文時代晩期、弥生時代後期、奈良・平安、中世にかけての複合遺跡である。遺跡は弥生時代後期を主体とし、円形竪穴住居跡3軒、土壇墓23基が発見された。

竪穴住居跡-1号住居跡は赤ホヤ層を掘り込んだ径約7.5mのほぼ円形を呈し、深さは10～28cmである。床面はフラットに仕上げ、全体的に硬化面がみられる。ピットは大小32個を検出したが、支柱となるピットは不明である。また、住居跡の西側は2基の土壇と重複している。住居内からは弥生後期の甕形土器、壺形土器(第4図)が出土した。また、1号住居跡の北側に隣接して縦4.5m、横4mの範囲に硬化した面を確認したが、検出した状況から住居の床面と推定され、2号住居跡とした。床面より上部は耕作等により削平を受けている。3号住居跡の周辺は盛土工法で保存されることとなった。

土壇墓-南北24m、東西16mの範囲に埋葬形態の異なる22基の土壇墓が発見された。土壇墓の形態には①組合せ箱式石棺墓(5, 6, 8, 12, 22)で、②



第1図 前畑遺跡の位置

覆石を伴う木棺墓(1, 2, 7), ③組合せ式木棺墓(11, 16), ④2段掘りの土壇墓(18, 20, 21), ⑤素掘りの土壇墓(3, 4, 9, 10, 13, 14, 15, 17, 19)の5種類がある。これらの土壇墓は重複関係にはなく単独で検出された。ただし、1号・2号・9号は竪穴住居跡と重複する。

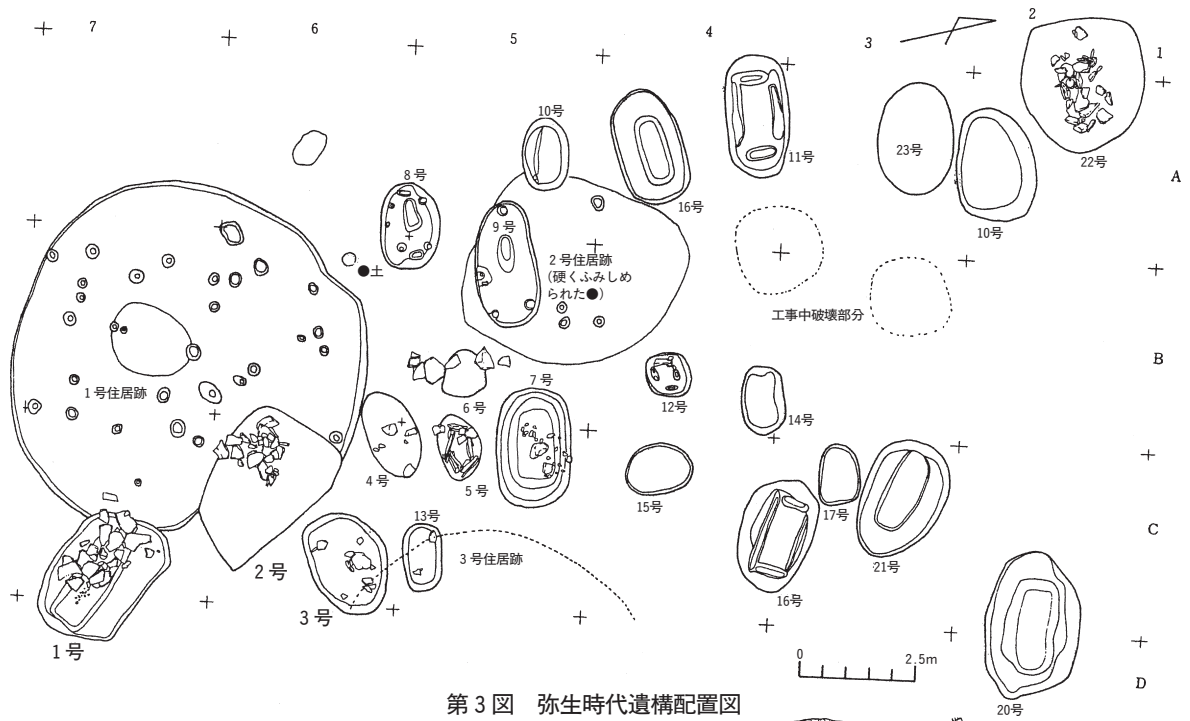
土壇墓内からの出土遺物(第7図)には、少量であるが、弥生時代後期末の長頸壺(免田式土器-21号, 22号土壇墓出土で供献遺物)を主に、壺形土器(安国寺式-1号土壇墓)が出土し、22号土壇墓からは副葬品として、長さ10.2cm、幅1.8cmの矛に類似する有茎長三角形の鉄鏃が出土した。身には柄を装着する袋と基部には返りを有す。袋内には木質が残存し、先端部には布が錆とともに付着していた。

### 特徴

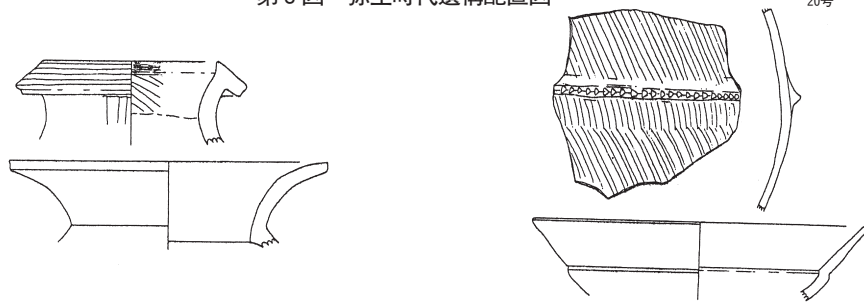
前畑遺跡は、現在水田地帯であるが、調査の結果弥生時代の遺構検出状況から調査地点は北から南へ緩やかに傾斜していることから、ここを中心に小高い微高地であったことが想定される。竪穴住居跡や土壇墓から出土する土器形式には隔たりは無く、極めて近い関係にある。生活の営みの場から、その後墓地として変容する要素は一体何を意味するのか、課題といえる。また、本遺跡の特徴としては、同一墓地内において5種類の埋葬形態が混在していることである。本県における、弥生時代の埋葬については、墓自体の発見例に乏しくその実体については不明であるが、一部、甕棺墓や支石墓(薩摩半島)、種子島に覆石墓(種子島)が知られている。前畑遺跡は地理的に中部・北部九州に近く、箱式木棺墓・



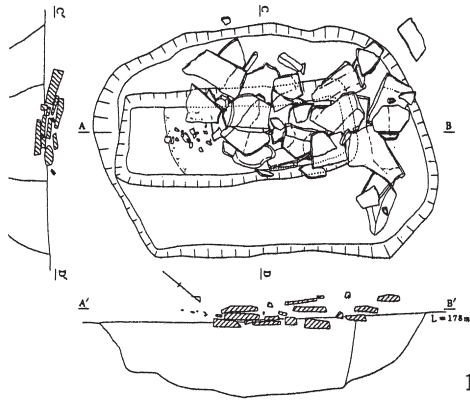
第2図 調査地点



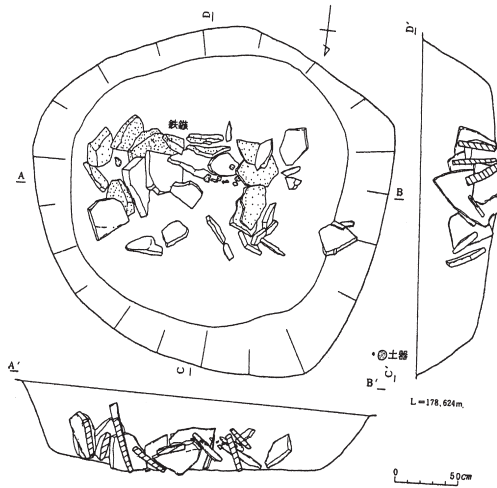
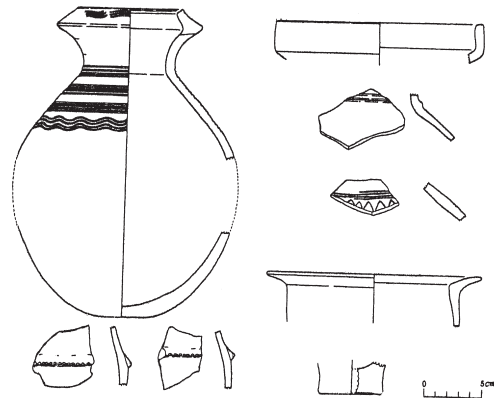
第3図 弥生時代遺構配置図



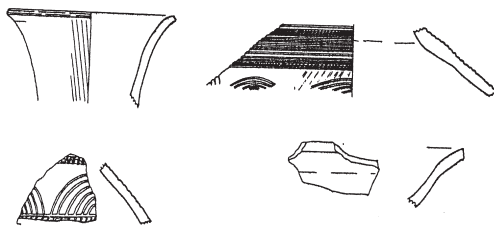
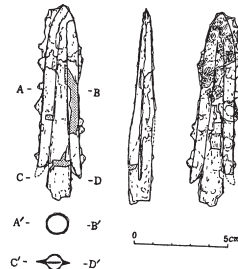
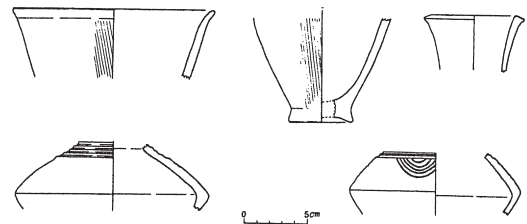
第4図 1号住居跡出土遺物



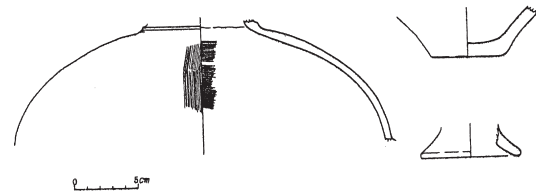
第5図  
1号土壙墓  
と出土遺物



第6図 21号土壙墓出土土器



第7図 22号土壙墓と出土遺物



組合せ箱式石棺墓等の埋葬形態は、ここからの影響を受けたものと推定される。本県には古墳時代の墳墓として、地下式板石積石室墓や地下式横穴墓が構築され、菱刈町を含む伊佐地方には2つの形態の異なる墓が共存して分布している。22号土壙墓の組合せ石棺墓は、石棺の上部は数枚の板石で覆われ、形態や構造的に地下式板石積石室墓に類似していることから、地下式板石積石室墓との関連性が指摘できよう。出水郡高尾野町堂前古墳や長崎県五島松原遺跡などの例からも弥生文化にその祖形があるとされ、地下式板石積石室墓への過渡期的な墓としてとらえ

たい。

前畑遺跡は埋葬形態の異なる群集墓からなり、埋葬施設の方向にはほぼ統一性がみられ、いずれも重複関係にはなく、整然と配置され、出土遺物にも時間的な差違はほとんど見られない。本県では数少ない弥生終末の埋葬遺跡として貴重な遺跡である。

資料の所在

出土遺物は、菱刈町教育委員会に保管されている。

参考文献

菱刈町教育委員会1983「前畑遺跡」『菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書』2 (青崎和憲)